



(公) 財務会計基準機構会員

平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年1月27日

上場会社名 大阪製鐵株式会社 上場取引所 東証・大証1部
 コード番号 5449 URL <http://www.osaka-seitetsu.co.jp>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名) 永広 和夫
 問合せ先責任者 (役職名)財務部長 (氏名) 久埜 誠一 (TEL)06(6204)0163
 四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 23年3月期第3四半期 | 52,529 | 9.5 | 5,551 | △19.4 | 5,728 | △18.5 | 4,747 | 16.0 |
| 22年3月期第3四半期 | 47,978 | △56.4 | 6,883 | △62.8 | 7,025 | △62.3 | 4,094 | △62.9 |

| | 1株当たり 四半期純利益 | | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 | |
|-------------|-----------------|----|----------------------------|---|
| | 円 | 銭 | 円 | 銭 |
| 23年3月期第3四半期 | 115 | 04 | — | — |
| 22年3月期第3四半期 | 99 | 20 | — | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | | 純資産 | | 自己資本比率 | | 1株当たり純資産 | |
|-------------|---------|--|---------|--|--------|--|----------|--|
| | 百万円 | | 百万円 | | % | | 円 銭 | |
| 23年3月期第3四半期 | 140,097 | | 122,780 | | 86.8 | | 2,946 62 | |
| 22年3月期 | 135,485 | | 119,174 | | 87.0 | | 2,856 02 | |

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 121,594百万円 22年3月期 117,859百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | | | | | | |
|------------|--------|---|--------|----|--------|----|----|----|----|----|
| | 第1四半期末 | | 第2四半期末 | | 第3四半期末 | 期末 | 合計 | | | |
| | 円 | 銭 | 円 | 銭 | 円 | 銭 | 円 | 銭 | | |
| 22年3月期 | — | — | 10 | 00 | — | — | 5 | 00 | 15 | 00 |
| 23年3月期 | — | — | 15 | 00 | — | — | — | — | — | — |
| 23年3月期(予想) | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |

(注) 1 当四半期における配当予想の修正有無 : 無

(注) 2 期末配当予想については、現段階では未定とさせていただきます。4ページ(剰余金の配当)をご覧ください。

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 | |
|----|--------|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|----------------|----|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 | 銭 |
| 通期 | 71,000 | 11.4 | 5,800 | △22.2 | 6,000 | △21.3 | 4,900 | 14.4 | 118 | 74 |

(注) 1 当四半期における業績予想の修正有無 : 有

詳細については、4ページ1-(2)「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(注) 2 業績予想には、棚卸資産の評価方法変更影響を経常利益ベースで通期15億円(益)含んでおります。なお、実際の原料価格等の変動により、影響額は大きく異なる可能性があります。

4. その他(詳細は、【添付資料】P.5「その他の情報」をご覧ください。)

- (1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無
 新規 社 ()、除外 社 ()

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

- (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

- (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

- ② ①以外の変更 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

| | | | |
|----------|-------------|----------|-------------|
| 23年3月期3Q | 42,279,982株 | 22年3月期 | 42,279,982株 |
| 23年3月期3Q | 1,014,077株 | 22年3月期 | 1,013,088株 |
| 23年3月期3Q | 41,266,485株 | 22年3月期3Q | 41,272,244株 |

- ② 期末自己株式数

- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|----------------------------|----|
| 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 | 4 |
| (1) 連結経営成績に関する定性的情報 | 4 |
| (2) 連結業績予想に関する定性的情報 | 4 |
| 2. その他の情報 | 5 |
| (1) 重要な子会社の異動の概要 | 5 |
| (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 | 5 |
| (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 | 5 |
| (4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 | 5 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 6 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 6 |
| (2) 四半期連結損益計算書 | 8 |
| 【第3四半期連結累計期間】 | 8 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 9 |
| (4) 継続企業の前提に関する注記 | 10 |
| (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 | 10 |

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、一部の産業分野に持ち直しの兆しが見られたものの、円高の進行に伴う輸出の減速、駆け込み需要の反動減による個人消費の落ち込みなどにより、回復の歩みは急速に鈍化し、横這いが続く状態で推移いたしました。

電炉業界におきましても、主要な需要先である建築・土木分野の需要が引き続き極めて低い水準となり、大幅な減産の継続と鋼材市況の軟化を余儀なくされました。また、円高による輸出環境の悪化や世界的な資源インフレによるスクラップ価格の上昇等、経営環境は一段と厳しいものとなりました。

このような極めて厳しい状況の下、当社グループは需要に見合った生産・販売に徹することを基本に、適正価格の維持・改善を進め、特に「必要な時に・必要な商品を・必要なだけ造り・お届けする」という大阪製鐵版ジャストインタイムに徹しながら、あらゆる無駄排除に取り組むGo ZERO活動を強化・推進し、グループ全社を挙げて徹底したコストダウンに取り組んでまいりました。

この結果、経常利益は前年同期に対し減益となったものの一定の水準を確保いたしました。

当第3四半期連結累計期間の当社グループにおける鋼材売上数量は64万9千トン(前年同期実績61万6千トン)、売上高は525億2千9百万円(前年同期実績479億7千8百万円)、経常利益は57億2千8百万円(前年同期実績70億2千5百万円)となりました。また、大阪市中央区に所有する賃貸用資産の譲渡等に伴う固定資産売却益を特別利益として18億1百万円計上いたしました結果、四半期純利益は47億4千7百万円(前年同期実績40億9千4百万円)となりました。

(2) 連結業績予想に関する定性的情報(平成23年3月期通期)

第4四半期以降におけるわが国経済の見通しは、内需の回復が見込めない中で、円高の継続により輸出環境の好転も望めないなど、引き続き厳しい状況が予想されます。

当社グループにおきましても、建築・土木分野の低迷が恒久的となる可能性が高く、未曾有の低操業を続けざるを得ない状況であることに加え、資源インフレによるスクラップ価格高も懸念されるなど、先行きの不透明感が一層強まっております。

このように一段と厳しさを増す経営環境を受け、平成23年3月期通期連結収益予想につきましては、売上高710億円(前回予想760億円)、経常利益60億円(前回予想80億円)、当期純利益49億円(前回予想61億円)と、昨年10月公表の業績予想から減益となる見通しです。

当社グループは、この状況を踏まえ、従前にも増して需要に見合った生産・販売を基本とし、適正価格の維持・改善に徹するとともに、あらゆる無駄排除に取り組むGo ZERO活動の一層の強化・推進、生産・販売・調達が一体となった管理体制の強化等、徹底したコスト削減・収益確保に全力で取り組んでまいります。

また、高級商品化、国際化の展開、アライアンスの強化等をより強力に進めるとともに、事業の選択と集中にも一層の力を入れ、国際的な視点に立って将来に備えた成長戦略の展開を推進してまいります。

(剰余金の配当)

配当につきましては、業績に応じて行うこととしております。

なお、期末配当予想につきましては、需要環境等の先行きが極めて不透明な状況にあることから、収益見通しが明らかになった時点で改めて検討・公表致します。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

1. 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

2. 棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、一部の原材料及び貯蔵品を除いて実地棚卸を省略し、第2四半期連結会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

3. 経過勘定項目の算定方法

合理的な算定方法による概算額で計上する方法によっております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

第1四半期連結会計期間より、「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成20年9月26日)を適用し、棚卸資産の評価方法を後入先出法から総平均法に変更しております。

これにより、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は、それぞれ1,260百万円増加しております。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当第3四半期累計期間

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日) | 前連結会計年度末 (平成22年3月31日) |
|---------------|--------------------------------|--------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,895 | 408 |
| 受取手形及び売掛金 | 26,354 | 19,428 |
| 製品 | 4,678 | 3,035 |
| 仕掛品 | 201 | 268 |
| 原材料及び貯蔵品 | 4,189 | 3,913 |
| 繰延税金資産 | 267 | 816 |
| 預け金 | 51,467 | 53,656 |
| その他 | 145 | 579 |
| 貸倒引当金 | △4 | △4 |
| 流動資産合計 | 89,196 | 82,102 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 18,808 | 19,128 |
| 減価償却累計額 | △12,345 | △12,016 |
| 建物及び構築物(純額) | 6,463 | 7,112 |
| 機械装置及び運搬具 | 54,192 | 53,987 |
| 減価償却累計額 | △43,425 | △41,569 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 10,766 | 12,417 |
| 工具、器具及び備品 | 5,531 | 5,312 |
| 減価償却累計額 | △4,679 | △4,345 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 852 | 967 |
| 土地 | 30,099 | 29,905 |
| 建設仮勘定 | 654 | 454 |
| 有形固定資産合計 | 48,835 | 50,857 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 0 | 25 |
| その他 | 16 | 16 |
| 無形固定資産合計 | 16 | 41 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 1,389 | 1,701 |
| 長期貸付金 | 6 | 7 |
| 繰延税金資産 | 291 | 375 |
| その他 | 443 | 493 |
| 貸倒引当金 | △83 | △93 |
| 投資その他の資産合計 | 2,048 | 2,483 |
| 固定資産合計 | 50,900 | 53,382 |
| 資産合計 | 140,097 | 135,485 |

(単位:百万円)

| | 当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日) | 前連結会計年度末 (平成22年3月31日) |
|--------------|--------------------------------|--------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 8,943 | 7,718 |
| 未払法人税等 | 953 | 1,228 |
| 修繕引当金 | 1,042 | 954 |
| その他 | 2,244 | 2,298 |
| 流動負債合計 | 13,183 | 12,199 |
| 固定負債 | | |
| 繰延税金負債 | 2,061 | 2,181 |
| 退職給付引当金 | 1,662 | 1,728 |
| 役員退職慰労引当金 | 135 | 137 |
| その他 | 274 | 64 |
| 固定負債合計 | 4,133 | 4,111 |
| 負債合計 | 17,317 | 16,310 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 8,769 | 8,769 |
| 資本剰余金 | 10,648 | 10,648 |
| 利益剰余金 | 102,793 | 98,871 |
| 自己株式 | △1,082 | △1,081 |
| 株主資本合計 | 121,129 | 117,208 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 465 | 650 |
| 評価・換算差額等合計 | 465 | 650 |
| 少数株主持分 | 1,185 | 1,315 |
| 純資産合計 | 122,780 | 119,174 |
| 負債純資産合計 | 140,097 | 135,485 |

(2) 四半期連結損益計算書

【第3四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日) |
|-------------------|--|--|
| 売上高 | 47,978 | 52,529 |
| 売上原価 | 37,762 | 43,797 |
| 売上総利益 | 10,216 | 8,732 |
| 販売費及び一般管理費 | | |
| 運搬費 | 1,766 | 1,783 |
| 給料及び賞与 | 462 | 528 |
| 退職給付引当金繰入額 | 29 | 25 |
| 役員退職慰労引当金繰入額 | 31 | 30 |
| 貸倒引当金繰入額 | 58 | — |
| 減価償却費 | 42 | 41 |
| その他 | 942 | 770 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 3,332 | 3,180 |
| 営業利益 | 6,883 | 5,551 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 128 | 83 |
| 受取配当金 | 18 | 21 |
| 負ののれん償却額 | 27 | — |
| 固定資産賃貸料 | 107 | 79 |
| 補助金収入 | — | 76 |
| その他 | 66 | 58 |
| 営業外収益合計 | 348 | 319 |
| 営業外費用 | | |
| 出向者給料等負担金 | 70 | 67 |
| 固定資産除却損 | 77 | 39 |
| その他 | 58 | 35 |
| 営業外費用合計 | 206 | 142 |
| 経常利益 | 7,025 | 5,728 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | — | 1,801 |
| 特別利益合計 | — | 1,801 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 7,025 | 7,529 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 2,415 | 2,228 |
| 法人税等調整額 | 446 | 682 |
| 法人税等合計 | 2,862 | 2,911 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | — | 4,618 |
| 少数株主利益又は少数株主損失(△) | 69 | △129 |
| 四半期純利益 | 4,094 | 4,747 |

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位:百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日) |
|-------------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 7,025 | 7,529 |
| 減価償却費 | 2,947 | 2,829 |
| 負ののれん償却額 | △27 | — |
| 貸倒引当金の増減額(△は減少) | 58 | △10 |
| 退職給付引当金の増減額(△は減少) | △22 | △65 |
| 役員退職慰労引当金の増減額(△は減少) | △8 | △2 |
| 修繕引当金の増減額(△は減少) | 48 | 88 |
| 受取利息及び受取配当金 | △146 | △105 |
| 有形固定資産除却損 | 77 | 39 |
| 有形固定資産売却損益(△は益) | △0 | △1,801 |
| 売上債権の増減額(△は増加) | △4,538 | △6,926 |
| たな卸資産の増減額(△は増加) | 1,053 | △1,852 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | 1,912 | 1,225 |
| その他 | △814 | 641 |
| 小計 | 7,564 | 1,591 |
| 利息及び配当金の受取額 | 146 | 105 |
| 法人税等の支払額 | △7,853 | △2,474 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △142 | △778 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の売却による収入 | 1 | 2,403 |
| 有形固定資産の取得による支出 | △2,296 | △1,224 |
| その他の収入 | 42 | 0 |
| その他の支出 | △2 | △274 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △2,254 | 904 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 自己株式の取得による支出 | △7 | △1 |
| 配当金の支払額 | △1,320 | △825 |
| 少数株主への配当金の支払額 | △1 | △1 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △1,329 | △828 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △3,726 | △702 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 51,194 | 54,065 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 47,468 | 53,363 |

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

該当事項はありません。